

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-332699

(P2007-332699A)

(43) 公開日 平成19年12月27日(2007.12.27)

(51) Int. Cl.

E O 4 B 1/348 (2006.01)
E O 4 B 1/00 (2006.01)

F I

E O 4 B 1/348 H
 E O 4 B 1/348 L
 E O 4 B 1/348 T
 E O 4 B 1/00 5 O 1 G

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2006-167167 (P2006-167167)
 (22) 出願日 平成18年6月16日 (2006.6.16)

(71) 出願人 000114086
 ミサワホーム株式会社
 東京都杉並区高井戸東2丁目4番5号
 (74) 代理人 110000637
 特許業務法人樹之下知的財産事務所
 (74) 代理人 100079083
 弁理士 木下 實三
 (74) 代理人 100094075
 弁理士 中山 寛二
 (74) 代理人 100106390
 弁理士 石崎 剛
 (72) 発明者 小林 雅呂
 東京都杉並区高井戸東2丁目4番5号 ミ
 サワホーム株式会社内

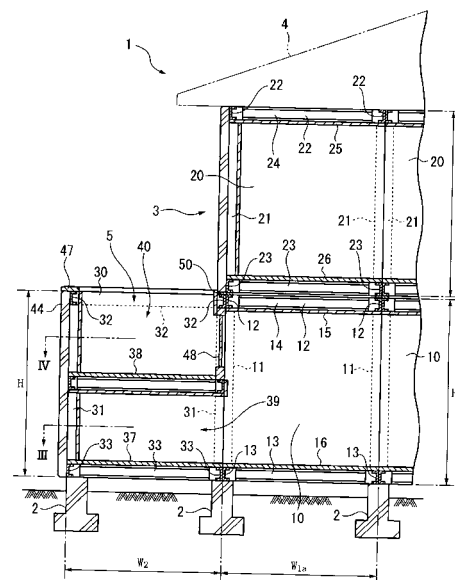
(54) 【発明の名称】 ユニット式建物

(57) 【要約】

【課題】 通常の建物ユニットが利用でき、製造コストの増加を抑制しつつバルコニを設置することができるユニット式建物を提供すること。

【解決手段】 バルコニユニット30を基礎2上に設置し、バルコニユニット30の柱31上端と下階建物ユニット10の柱11上端とをシアプレート50で連結したので、建物ユニット10の柱11を補強したり、柱11の中間部分に接合部材を固定したり等の特別な加工が不要になり、通常の建物ユニットが利用できて製造コストの増加を抑制することができる。また、基礎2上に設置されていることで、バルコニユニット30の大型化を図ることができ、広々とした収納空間39およびバルコニ空間40が実現できる。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

柱、上梁および下梁から略直方体状に形成された骨組みを有する建物ユニットを複数配置して構成される建物本体と、この建物本体に隣接配置される少なくとも 1 つのバルコニユニットから構成されるバルコニとを備えたユニット式建物であって、

前記バルコニユニットには、下部床部および中間床部と、これらの下部床部と中間床部との間に形成されて前記建物本体内部から物の出し入れが可能な収納空間と、前記中間床部の上側に形成されたバルコニ空間とが設けられ、

前記バルコニユニットは、前記建物ユニットに隣接して基礎上に設置されるとともに、隣接する建物ユニットにおける一对の柱の各々に沿って延び、かつ当該柱と上端位置が揃えられた一对のバルコニユニット柱を有して構成され、これらのバルコニユニット柱の上端と前記建物ユニットの柱の上端とが互いに連結されていることを特徴とするユニット式建物。 10

【請求項 2】

請求項 1 に記載されたユニット式建物において、

前記バルコニユニットは、前記一对のバルコニユニット柱を含んで平面矩形状に配置された四隅のバルコニユニット柱と、当該バルコニユニット柱の柱頭同士を結合する上梁と、当該バルコニユニット柱の柱脚同士を結合する下梁と、からなる略直方体状の骨組みを有して形成され、

互いに隣接する前記建物ユニットおよび前記バルコニユニットにおいて、当該バルコニユニットの隣接方向に沿った幅寸法は、当該建物ユニットの幅寸法と同一か、または当該建物ユニットの幅寸法にモジュールの整数倍を加減した寸法に設定されていることを特徴とするユニット式建物。 20

【請求項 3】

請求項 1 または請求項 2 に記載されたユニット式建物において、

前記建物ユニットの一对の柱と前記バルコニユニットの一对のバルコニユニット柱とは、互いの柱頭部同士がシアプレートで連結されていることを特徴とするユニット式建物。

【請求項 4】

請求項 1 から請求項 3 のいずれかに記載されたユニット式建物において、 30

前記バルコニユニットには、前記下部床部と前記中間床部との間を行き来する階段が設けられていることを特徴とするユニット式建物。

【請求項 5】

請求項 1 から請求項 4 のいずれかに記載されたユニット式建物において、

前記バルコニユニットには、前記収納空間の内部を上下に仕切る仕切りが設けられていることを特徴とするユニット式建物。

【請求項 6】

請求項 1 から請求項 5 のいずれかに記載されたユニット式建物において、

前記バルコニユニットにおける前記建物本体と反対側の少なくとも一側面には、前記収納空間および前記バルコニ空間の側方を覆って上下に連続する壁面が形成されていることを特徴とするユニット式建物。 40

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、略直方体状に形成された骨組みを有する建物ユニットを複数配置して構成される建物本体と、この建物本体にバルコニユニットを取り付けて構成されるバルコニとを備えたユニット式建物に関する。

【背景技術】**【0002】**

建物本体における 2 階部分にバルコニユニットを取り付けて施工されるユニット式建物 50

が知られている（例えば、特許文献１）。

このユニット式建物では、バルコニユニットに上下２段の床部が設けられており、これらの床部の間に収納空間が形成され、上の床部の上側空間がバルコニとして利用できるようになっている。

【０００３】

【特許文献１】特開平１０－２６６３３１号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００４】

しかしながら、特許文献１で示される従来例では、建物本体の外壁面から片持ち状に突出してバルコニユニットが取り付けられ、バルコニユニットの基端部が建物ユニットの柱（躯体）の中間部分にボルト接合により固定されているため、建物ユニットの柱を補強したり柱に接合部材を固定したり等、独自構造の建物ユニットを製作しなければならず、製造コストが増大するという問題がある。

【０００５】

本発明の目的は、通常の建物ユニットが利用でき、製造コストの増加を抑制しつつバルコニを設置することができるユニット式建物を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

この目的を達成するために本発明のユニット式建物は、以下の構成を備える。

すなわち、本発明のユニット式建物は、柱、上梁および下梁から略直方体状に形成された骨組みを有する建物ユニットを複数配置して構成される建物本体と、この建物本体に隣接配置される少なくとも１つのバルコニユニットから構成されるバルコニとを備えたユニット式建物であって、前記バルコニユニットには、下部床部および中間床部と、これらの下部床部と中間床部との間に形成されて前記建物本体内部から物の出し入れが可能な収納空間と、前記中間床部の上側に形成されたバルコニ空間とが設けられ、前記バルコニユニットは、前記建物ユニットに隣接して基礎上に設置されるとともに、隣接する建物ユニットにおける一対の柱の各々に沿って延び、かつ当該柱と上端位置が揃えられた一対のバルコニユニット柱を有して構成され、これらのバルコニユニット柱の上端と前記建物ユニットの柱の上端とが互いに連結されていることを特徴とする。

【０００７】

この発明によれば、バルコニユニットを基礎上に設置した、つまり建物本体の建物ユニットに片持ち状に支持させていないとともに、バルコニユニット柱の上端と建物ユニットの柱の上端とを連結したことで、建物ユニットにおける柱を補強したり柱の中間部分に接合部材を固定したり等の特別な加工を施す必要がなくなり、通常の建物ユニットが利用できて製造コストの増加を抑制することができる。

また、バルコニユニットを構成する一対のバルコニユニット柱を隣接する建物ユニットにおける一対の柱の各々に沿わせて配置する、すなわち一対の柱間の距離（建物ユニットおよびバルコニユニットの水平長さ寸法 L ）を合致させることができるとともに、バルコニユニット柱の上端位置を建物ユニットの柱の上端位置に揃える、すなわち両ユニットを同一高さの基礎上に載置する場合には、両ユニットの柱の長さ寸法（ユニットの高さ寸法 H ）を合致させることができる。従って、建物ユニットとバルコニユニットとで柱や梁等の部材を共通化したり、組立装置や組立工程を共通化することができ、この点でも製造コストの低減を図ることができる。

さらに、バルコニユニットが基礎上に設置されていることで、バルコニユニットの大型化を図ることができ、広々とした収納空間およびバルコニ空間が実現できる。また、バルコニユニット柱と建物ユニットの柱とが連結されていることで、建物本体とバルコニとを一体化できるとともに、バルコニユニット柱によって建物本体を構造的に補強することができる。

【０００８】

この際、本発明のユニット式建物では、前記バルコニユニットは、前記一对のバルコニユニット柱を含んで平面矩形状に配置された四隅のバルコニユニット柱と、当該バルコニユニット柱の柱頭同士を結合する上梁と、当該バルコニユニット柱の柱脚同士を結合する下梁と、からなる略直方体状の骨組みを有して形成され、互いに隣接する前記建物ユニットおよび前記バルコニユニットにおいて、当該バルコニユニットの隣接方向に沿った幅寸法は、当該建物ユニットの幅寸法と同一か、または当該建物ユニットの幅寸法にモジュールの整数倍を加減した寸法に設定されていることが好ましい。

【0009】

この構成によれば、バルコニユニットを四隅のバルコニユニット柱と、これらの上下端を連結する上梁および下梁とからなる略直方体状の骨組みを有して形成する、つまりバルコニユニットを建物ユニットと同様に略直方体状の骨組みを有した構造とすることで、建物ユニットとバルコニユニットとで部材や組立装置、組立工程、運搬方法の共通化を促進させることができ、さらなる製造コストの低減を図ることができる。

そして、建物ユニットとバルコニユニットとにおいて、前述のように互いの水平長さ寸法 L および高さ寸法 H を合致させることで、互いの基礎構造が共通化できるとともに、建設現場における両ユニット設置および連結の際の作業性を向上させることができ、工期の短縮や施工コストの低減を図ることができる。

また、バルコニユニットの隣接方向に沿った幅寸法（水平長さ寸法 L と直交する方向の寸法であって、幅寸法 $W2$ ）を、建物ユニットの幅寸法（幅寸法 $W1$ ）と同一にすれば、両ユニットの共通化をさらに図ることができる。一方、バルコニユニットの幅寸法が建物ユニットの幅寸法と同一ではなく、モジュールの整数倍の寸法を加減した寸法に設定されていれば、少なくとも外装材や内装材等の共通化が可能になり、この場合でも製造および施工コストの低減を図ることができる。

【0010】

さらに、本発明のユニット式建物では、前記建物ユニットの一对の柱と前記バルコニユニットの一对のバルコニユニット柱とは、互いの柱頭部同士がシアースプレートで連結されていることが好ましい。

この構成によれば、建物ユニットの柱頭部とバルコニユニット柱の柱頭部とをシアースプレートで連結することで、建物ユニットの柱頭部同士を連結する一般的な連結構造によりバルコニユニットと建物ユニットとを連結することができ、この点でも部材や連結作業の共通化を図ることができる。さらに、一般的な連結構造であるシアースプレートで連結することで、このシアースプレートが邪魔になることがなく、バルコニユニットと隣接する建物ユニット上に上階の建物ユニットを配置することができる。

【0011】

また、本発明のユニット式建物では、前記バルコニユニットには、前記下部床部と前記中間床部との間を行き来する階段が設けられていることが好ましい。

この構成によれば、バルコニユニットに階段を設けることで、建物ユニット側に階段を設ける必要がなくなり、建物本体を構成する複数の建物ユニット同士の構造を共通化することができる。

【0012】

また、本発明のユニット式建物では、前記バルコニユニットには、前記収納空間の内部を上下に仕切る仕切りが設けられていることが好ましい。

この構成によれば、収納空間に設けた仕切りを建物本体の側から柵として利用することができ、利便性を向上させることができる。

【0013】

また、本発明のユニット式建物では、前記バルコニユニットにおける前記建物本体と反対側の少なくとも一側面には、前記収納空間および前記バルコニ空間の側方を覆って上下に連続する壁面が形成されていることが好ましい。

この構成によれば、バルコニユニットを1階に設置した場合であっても、隣地や道路等の外部空間とバルコニ空間とを壁面で仕切ることができ、プライバシーを守ることができ

10

20

30

40

50

るとともに、バルコニを介して建物内部への侵入を防止して防犯性を確保することができる。すなわち、バルコニユニットを1階に設置した場合には、バルコニ空間の床面である中間床部の上面が地面から比較的低い位置になり、外部から見えやすくなってしまうため、バルコニよりも外側に塀や生け垣等を設置する必要があったが、バルコニユニットに壁面を形成したことで、このバルコニを道路等に面して設置することもできるようになり、建物の計画自由度を向上させることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0014】

以下、本発明の実施形態を図面に基づいて説明する。ここで、各実施形態の説明において同一構成要素は同一符号を付して説明を省略する。

10

図1は、本実施形態に係るユニット式建物1を示す一部を省略した斜視図である。図2は、ユニット式建物1を示す断面図である。図3および図4は、ユニット式建物1の1階部分を示す平面図であり、図3は、図2の矢視III線で示す高さ位置の平面図であり、図4は、図2の矢視IV線で示す高さ位置の平面図である。

図1～図4において、ユニット式建物1は、基礎2の上に設けられた複数(6個)の下階建物ユニット10と、これらの下階建物ユニット10の上に設けられた複数(6個)の上階建物ユニット20とを有した建物本体3、この建物本体3の上に設けられた屋根4、および建物本体3の1階部分に隣接配置されたバルコニユニット30から構成されるバルコニ5を備えて構成されている。

【0015】

20

下階建物ユニット10および上階建物ユニット20は、それぞれ四隅に立設された4本の柱11、21と、これらの柱11、21の上端間同士を結合する4本の上梁12、22と、柱11、21の下端間同士を結合する4本の下梁13、23と、から略直方体状に形成された骨組み14、24を有する標準建物ユニットである。そして、下階建物ユニット10および上階建物ユニット20の骨組み14、24には、それぞれ長辺方向の上梁12、22間の天井小梁に支持された天井面材15、25や、長辺方向の下梁13、23間の根太に支持された床面材16、26、内壁、外壁、サッシ窓、その他の艤装部材等が予め工場で取り付けられている。このような下階建物ユニット10は、その4本の柱11の下方においてアンカーボルト(図示せず)を介して基礎2に締結され、上階建物ユニット20は、その4本の柱21の下端部が下階建物ユニット10の4本の柱11の上端部に連結部材であるシアプレート(図示せず)を介して連結されている。

30

【0016】

次に、図5および図6をも参照し、バルコニユニット30の構造を説明する。

図5および図6は、それぞれバルコニユニット30の骨組みおよび内部構造を示す斜視図である。

バルコニユニット30は、図5に示すように、標準建物ユニットの骨組み14、24と同様の骨組み34を有して構成されている。すなわち、バルコニユニット30の骨組み34は、四隅に立設された4本の柱(バルコニユニット柱)31と、これらの柱31の上端間同士を結合する4本の上梁32と、柱31の下端間同士を結合する4本の下梁33と、から略直方体状に形成されている。そして、バルコニユニット30の骨組み34には、長辺方向の上梁32と下梁33との間に架設された一对の間柱35と、これらの間柱35同士および柱31と間柱35とを結合する中間梁36とが設けられている。また、バルコニユニット30の下部には、長辺方向の下梁33間の根太に支持された床面材(下部床部)37が設けられ、バルコニユニット30の中間部には、中間梁36に支持された床面材(中間床部)38が設けられている。この床面材38の上面には適宜な防水構造が設けられている。

40

【0017】

また、図6に示すように、バルコニユニット30の内部には、床面材37、38間(下部床部と中間床部との間)に形成された収納空間39と、中間床部である床面材38の上側に形成されたバルコニ空間40とが設けられている。収納空間39は、図2に示すよう

50

に、建物本体 3 の内部（例えば、リビングルーム等）に開口されており、建物本体 3 の内部から物の出し入れが可能に構成されるとともに、収納空間 39 の建物本体 3 側の一部には、収納空間 39 の内部を上下に仕切る仕切り 41 が設けられ、この仕切り 41 が建物本体 3 内部から棚として利用可能になっている。バルコニ空間 40 は、屋外に露出した空間であって、その床を構成する床面材 38 の上面には適宜な防水構造が設けられている。また、バルコニユニット 30 の内部における中間床部が設けられない側には、下部床部と中間床部との間を行き来する階段 42 が設けられ、この階段 42 と収納空間 39 およびバルコニ空間 40 とが仕切り壁 43 で仕切られている。

【0018】

一方、図 1 および図 2 にも示すように、バルコニユニット 30 の屋外側である下階建物ユニット 10 と隣接しない三方には、収納空間 39 およびバルコニ空間 40 の側方を覆って上下に連続する外壁（壁面）44 が、骨組み 34 に支持されて設けられている。この外壁 44 には、階段 42 に隣接してルーバー（ガラリ）45 や勝手口 46、小窓等が設けられている程度で、大きな開口などが設けられておらず、屋外や敷地外の地面に立った人からバルコニ空間 40 が直接見えない（遮視できる）ようになっている。さらに、外壁 44 の上端縁には、手摺り 47 が設けられている。また、バルコニ空間 40 と建物本体 3 の内部空間との間は、窓 48 で仕切られており、この窓 48 から建物本体 3 の内部への採光が可能になっている。

【0019】

以上のようなバルコニユニット 30 は、基礎 2 に載置されるとともにアンカーボルトを介して基礎 2 に締結され、建物本体 3 側の 2 本の柱 31 が隣接する下階建物ユニット 10 の柱 11 に沿って配置されるとともに、これらの柱 11、31 の柱頭部同士が連結部材であるシアプレート 50（図 2、5 参照）を介して連結されている。

また、バルコニユニット 30 の各辺の寸法としては、長辺方向（建物本体 3 に沿った方向）の長さ寸法 L および高さ寸法 H が、それぞれ下階建物ユニット 10 および上階建物ユニット 20 と同一とされ、短辺方向（建物本体 3 との隣接方向）の幅寸法 W2 が下階建物ユニット 10 および上階建物ユニット 20 の幅寸法 W1a、W1b、W1c と同一か、または幅寸法 W1a、W1b、W1c にモジュールの整数倍を加減した寸法に設定されている。すなわち、同一の高さ位置に形成された基礎 2 上に下階建物ユニット 10 とバルコニユニット 30 とを隣接して設置することで、互いの一对の柱 11、31 同士が隣接し、かつ柱 11、31 の上端位置が揃うように、バルコニユニット 30 の各辺の寸法が設定されている。

【0020】

以上のような実施形態によれば以下の効果がある。

（１）バルコニユニット 30 が基礎 2 上に設置されているので、下階建物ユニット 10 や上階建物ユニット 20 にバルコニユニット 30 を片持ち状に支持させる必要がなく、建物ユニット 10、20 の柱 11、21 を補強したり、柱 11、21 の中間部分に接合部材を固定したり等の特別な加工が不要になり、通常の建物ユニットが利用できて製造コストの増加を抑制することができる。また、バルコニユニット 30 が基礎 2 上に設置されていることで、バルコニユニット 30 の大型化を図ることができ、広々とした収納空間 39 およびバルコニ空間 40 が実現できる。

【0021】

（２）さらに、バルコニユニット 30 の一对の柱 31 の上端と下階建物ユニット 10 の一对の柱 11 の上端とが、シアプレート 50 で連結されているので、建物本体 3 とバルコニユニット 30 とを一体化できるとともに、バルコニユニット 30 の骨組み 34 によって建物本体 3 を構造的に補強することができる。また、建物ユニット 10、20 の柱頭部同士を連結する一般的な連結構造であるシアプレート 50 を用いることで、部材や連結作業の共通化を図ることができるとともに、このシアプレート 50 が邪魔になることがなく、バルコニユニット 30 と隣接する下階建物ユニット 10 上に上階建物ユニット 20 を配置することができる。

【0022】

10

20

30

40

50

(3) また、バルコニユニット30の骨組み34が下階建物ユニット10や上階建物ユニット20の骨組み14, 24と同様の構造とされているので、各ユニット10, 20, 30で柱11, 21, 31や上梁12, 22, 32、下梁13, 23, 33等の部材を共通化したり、組立装置や組立工程、運搬方法の共通化を促進させることができ、さらなる製造コストの低減を図ることができる。

【0023】

(4) さらに、建物ユニット10, 20とバルコニユニット30とにおいて、互いの長辺方向長さ寸法Lおよび高さ寸法Hが同一に設定されているので、基礎2の構造が共通化できるとともに、建設現場における各ユニット10, 20, 30の設置および連結の際の作業性を向上させることができ、工期の短縮や施工コストの低減を図ることができる。

10

【0024】

(5) また、バルコニユニット30の短辺方向幅寸法W2を、建物ユニットの幅寸法W1a, W1b, W1cと同一にすれば、各ユニットの共通化をさらに図ることができる。一方、バルコニユニット30の幅寸法W2を、建物ユニット10, 20の幅寸法W1a, W1b, W1cにモジュールの整数倍を加減した寸法に設定すれば、少なくとも外装材や内装材等の共通化が可能になり、この場合でも製造および施工コストの低減を図ることができる。

【0025】

(6) また、バルコニユニット30の内部に下部床部と中間床部との間を行き来する階段42が設けられているので、このような階段を下階建物ユニット10内部に設ける必要がなくなり、下階建物ユニット10や上階建物ユニット20同士の構造を共通化することができる。

20

【0026】

(7) さらに、建物本体3と接しない側のバルコニユニット30の側面に外壁44が設けられ、この外壁44でバルコニ空間40の側が覆われているので、バルコニ空間40を隣地や道路等の外部空間から仕切ることができ、プライバシーを守ることができるとともに、バルコニ5を介して建物内部への侵入を防止して防犯性を確保することができる。これにより、バルコニ5よりも外側に塀や生け垣等を設置しなくてもよくなり、バルコニ5を道路等に面して設置することもでき、建物の計画自由度を向上させることができる。

【0027】

なお、本発明は前述の実施形態に限定されるものではなく、本発明の目的を達成できる範囲での変形、改良等は本発明に含まれるものである。

30

例えば、前記実施形態では、バルコニユニット30の構成として、四隅に立設された4本の柱31と、これらの柱31の上端間同士を結合する4本の上梁32と、柱31の下端間同士を結合する4本の下梁33と、から略直方体状に形成された骨組み34を有したものとしたが、このような構成に限定されない。すなわち、バルコニユニットとしては、隣接する建物ユニットの柱に沿ったバルコニユニット柱を有して形成され、かつ基礎上に載置されたものであればよく、例えば、建物ユニットと反対側の2本の柱がバルコニユニットの高さ寸法Hよりも短く形成されていてもよく、またバルコニユニットの高さ寸法Hよりも長く形成されていてもよい。さらに、バルコニユニットの上梁が省略されていてもよい。

40

【0028】

また、前記実施形態では、バルコニユニット30が下階建物ユニット10に隣接して1階に設置されていたが、これに限らず、2階以上の階にバルコニユニット30を設置してもよい。この場合には、バルコニユニットを支持する基礎を1階(あるいは2階以上の階)の天井付近まで構築しておけばよい。

さらに、バルコニユニット30の高さ寸法としては、隣接する建物ユニットの高さ寸法Hと同一でなくてもよい。すなわち、バルコニユニット柱の上端が隣接する建物ユニットの柱上端と揃えられていればよく、バルコニユニットを建物ユニットよりも高い(あるいは低い)高さ寸法で形成した場合には、バルコニユニットを支持する基礎の上面が建物ユニットを支持する基礎の上面よりも低く(あるいは高く)なるように設定すればよい。

50

【 0 0 2 9 】

また、前記実施形態では、１つのバルコニユニット３０からバルコニ５を構成したが、複数のバルコニユニットを用いてバルコニを構成してもよい。さらに、バルコニユニットが建物本体３の一側面に設置されるものに限らず、バルコニユニットの二辺が建物本体を構成する２つの建物ユニットと隣接するように設置されてもよく、またバルコニユニットの三辺（または四辺）が３つ（または４つ）の建物ユニットに隣接するように設置されていてもよい。

また、前記実施形態では、バルコニユニット３０の内部に階段４２を設けたが、このような階段を建物ユニットに設置してもよく、また建物本体３の１階から２階にかけて設けられた階段の踊り場からバルコニ空間に出入りできるように構成してもよい。

10

【産業上の利用可能性】

【 0 0 3 0 】

本発明は、住宅等の建物や、店舗等の建物に利用できる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 3 1 】

【図１】本発明の実施形態に係るユニット式建物を示す斜視図である。

【図２】前記ユニット式建物を示す断面図である。

【図３】前記ユニット式建物の１階部分を示す平面図である。

【図４】前記ユニット式建物の１階部分を示す平面図である。

【図５】前記ユニット式建物を構成するバルコニユニットの骨組みを示す斜視図である。

20

【図６】前記バルコニユニットの内部構造を示す斜視図である。

【符号の説明】

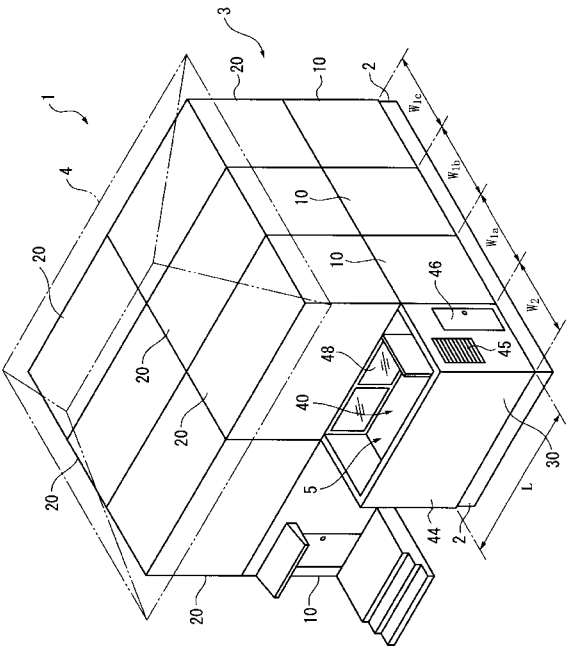
【 0 0 3 2 】

- １ ユニット式建物
- ２ 基礎
- ３ 建物本体
- ５ バルコニ
- １０ 下階建物ユニット
- ２０ 上階建物ユニット
- １１，２１ 柱
- １２，２２ 上梁
- １３，２３ 下梁
- １４ 骨組み
- ３０ バルコニユニット
- ３１ 柱（バルコニユニット柱）
- ３２ 上梁
- ３３ 下梁
- ３４ 骨組み
- ３７ 床面材（下部床部）
- ３８ 床面材（中間床部）
- ３９ 収納空間
- ４０ バルコニ空間
- ４１ 仕切り
- ４２ 階段
- ４４ 外壁（壁面）
- ５０ シアープレート。

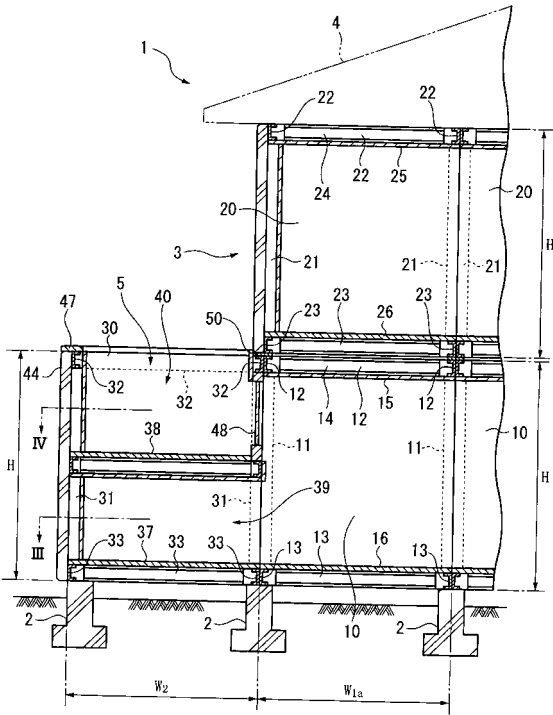
30

40

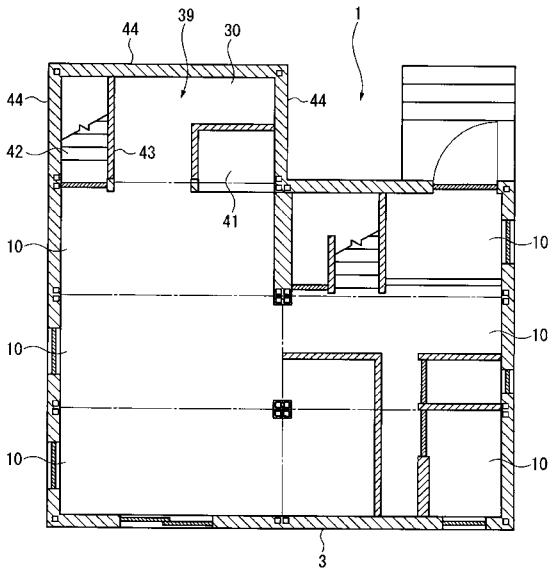
【図 1】



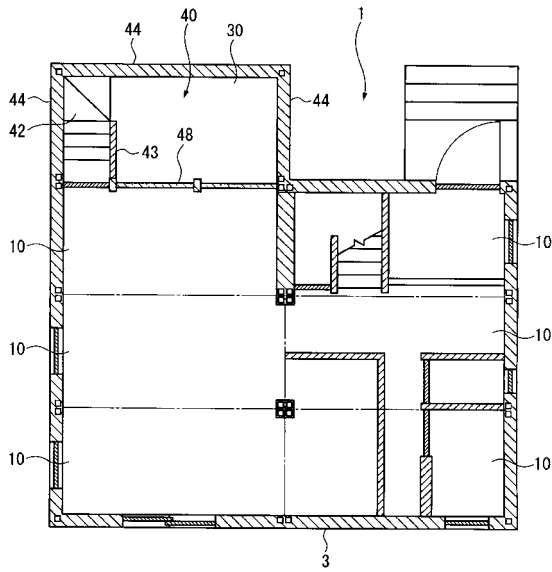
【図 2】



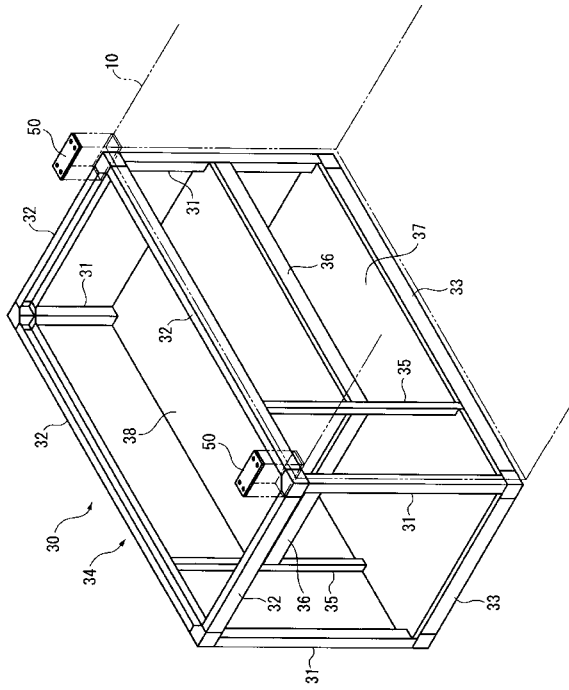
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

